

# 日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.2.7 No. 3345

## 91・3ダイヤ改合理化粉碎へ ストライキで闘おう!



### 津田沼は 闘い抜く

#### 小倉津田沼沼支部長の決意

今回の「ダイヤ改正」集会の開催―全員への  
によって、津田沼支部  
の解体攻撃がかけられ  
てきている。  
統一をはかり、体制を  
構築している。

大須賀君が経験した、  
成田運転区廃止のなが  
い経緯をたどらないた  
めにも、全力を挙げて  
断固として闘っていき  
たい。  
支部は、今次ダイヤ改  
の攻撃に対して、職場  
津田沼が集中的に狙  
われた中味であるが、  
「JR体制」の次々と  
かけられてくる攻撃を  
未然に防ぐためにも、  
ストライキを辞さず闘  
い抜く!

### 1/3報告 その2

#### 三大闘争に決起を ―田中書記長の報告―

大須賀さんが逝去され  
た一月十四日は、本来で  
あれば、第二波スト公判  
の証言台で鋭く解雇の不  
当性を追及していたはず  
の日であった。大須賀さ  
んの遺志を継いで、当面  
する最大の課題であるダ  
イ改阻止闘争に全力で決  
起することを確認したい。  
九一年は嵐の年として  
幕をあけた。アメリカの  
イラク猛爆撃は、中東石  
油支配のための侵略戦争  
である。日本は巨額の戦  
費拠出と自衛隊派兵で参  
戦国として名乗りをあげ  
た。まさに戦後史を画す  
る事態である。戦後支配  
が末期症状を呈している。  
労働者がいかに生きいか

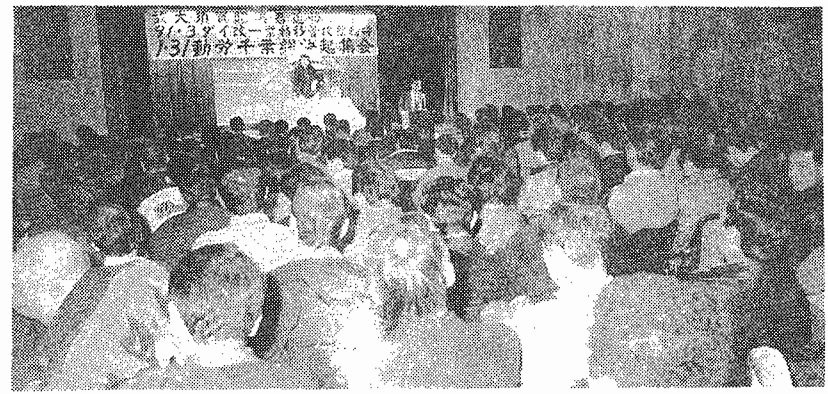
に闘うかが問われる時代  
に突入したといえる。  
JRをめぐる情勢も激  
変しようとしている。鉄  
道整備基金構想は、分割  
・民営化体制では、鉄道  
運営などできないとい  
うことだ。ツケは全て国民  
に回ってきた。結局分割  
・民営化とは、首きりと  
組合潰しだけが目的だっ  
たことが誰の目にも明ら  
かになろうとしている。  
また、革マル結託体制  
が断崖絶壁にたっている。  
東海・西日本では、当局  
によるJR総連脱退工作  
が表面化している。JR  
東日本でも、当局内革マ  
ル結託グループの腐敗は

## 中江選挙必勝へ 本格的に始動する

二月三日、中江選挙闘争  
必勝にむけて、組織内の選  
対を設置し、決意も新たに、  
三度目の勝利をかちとるた  
めに全力で闘いぬく決意を  
うち固めた。  
冒頭、中野委員長は、「  
無我夢中で勝ちきってきた  
一二期の決意と勢いで頑  
張ろう」と、号令を發した。  
中江氏は、「動労千葉の  
頂点に達し、多くの会社  
幹部に警察の捜査の手が  
伸びるに到っている。J  
R体制打倒に向けて力を  
結集すれば、必ずや暗雲  
が晴れ、新たな展望が拓  
けると確信できる。  
九一・三ダイヤ改は、明  
らかな動労千葉・国労破  
壊攻撃である。三二〇〇  
キロの業務移管による三  
四名の削減攻撃、殺人的  
な労働強化がのしかかる  
うとしている。われわれ  
は、二月下旬を焦点にス  
トライキを配置して断固  
たる闘いにたち上がる決  
意である。  
全力で三大闘争に決起  
しよう。第一の課題は、

ダイ改阻止闘争である。  
われわれの要求は、①業  
務移管攻撃を撤回させる  
こと。②過労死が深刻な  
問題となるほどの労働強  
化に対し、特に高齢者対  
策の展望を明らかにさせ  
ること。③強制配転者の  
原職復帰の展望を明らか  
にさせることである。  
第二の課題は、中江選  
挙闘争に総力をあげて決  
起すること。第三の課題  
は、清算事業団闘争を全  
力で闘うことである。  
激動の九一年を労働者  
が人間らしく生きるため  
に、明るい展望をきり拓  
くために、本日を期に全  
力で闘いに決起しよう。

委員長	中野 邦夫	本 部
副委員長	小倉 豊	津田沼
事務局長	田中 康宏	本 部
同次長	高石 正博	本 部
委員	川崎 昌浩	本 部
	佐藤 正和	本 部
	杉本 則夫	青年部
	中村 晶夫	総武
	大木 繁樹	新小岩
	石川 義雄	津田沼
	菅井 俊造	津田沼
	伊藤 俊彰	津田沼
	野村 康哉	津田沼
	小澤 天任	津田沼
	多田 敬治郎	津田沼
	木更津	津田沼



大須賀氏の遺影の前に  
総決起を誓う